

平成29年度 東京都立光明学園 学校経営報告

本校は、肢体不自由教育部門（小・中・高3学部）と病弱教育部門（小・中・高3学部）の2部門を2拠点（本校・分教室拠点）5指導形態（本校地域から通学生への教育、本校からの在宅訪問教育、寄宿舎を利用した通学生への教育、そよ風分教室での教育、分教室拠点からの病院訪問教育）を内包する新たなタイプの併置型特別支援学校として今年度新規開校し、初年度末を迎えた。1000年を刻む学校となるための基盤を強固に培うべく、開校後の3年間を限定し、「最重点経営目標」の上位に「特別重点目標」を独自に定めた。この特別重点化が功を奏し、特別重点目標1～3の数値指標を達成することができた。基盤整備と並行して、開校年度として「魅力ある肢・病併置校を目指して、ファースト・アクション」を研究スローガンに掲げ、本校の教育の特色を校内・校外が理解する場として、4セミナー・4分科会・1特別講座を含む全国公開研究会を開催し、全国から160名の参加者と本校217名で服装的な研究会を実施できた。これが30年度の踏み台となる。

（※以下、肢体不自由教育部門をS部門又はS、病弱教育部門をB部門又はBと表記する。）

1 今年度の取組と自己評価

“ KOMEI-GAKUEN Bright hopes 29 ”

(1) 教育活動としての取組みと自己評価（特別重点目標に関する数値目標と実績値）

特別重点1 魅力ある学園教育の創出 自己評価 ◎

数値目標 関係者意識評価「併置型学園としての良さを創出している」=70% ⇒ 84%

方策 学園一体化プロジェクト <主管：経営会議、広報部、経営企画室>

- 併置化の良さを生み出す為に、両部門生徒が共に学ぶ教科学習（数学I）の設定や合同補習機会を設けた。
→学園の一体感を醸成する為に、部門合同の開校式等の各式典や開校記念特別プログラム等を実施した。
- 校舎建築中の対応や新校舎への円滑な移行を担当する校舎建築委員会を設置し、説明や計画調整を担った。
- 新学園の機能を啓発する為にリーフレット作成やHPや駅・地域掲示板等を活用して情報発信を行った。
- 学園信頼の基盤となる教職員の接遇マナーの向上（服装、案内、電話、応答等）に努めた。

特別重点2 効率的・機能的な学校組織の確立による組織力向上 自己評価 ◎

数値目標 専門家評価「効率的・機能的な学校組織が構築できている」=70% ⇒ 86%

方策 学園運営システム構築プロジェクト <主管：経営会議、教育課程・学籍部>

- 教員がより指導に専念できるように併置校向け業務システムを開発し、効率化・合理化を図った。
→監督層である主幹級教員の職責を踏まえて権限強化と効率的な企画調整会議を構築した。
→主幹級教員が分掌を統括するとともに担当プロジェクトを明確にして業務を分担した。
→主任教諭の職責を踏まえて、主任として担当する業務を明確化した。
- 個人端末等を活用した効率的かつ的確な業務遂行と情報共有を進めた。

特別重点3 専門性ある人材を活用した教育の充実 自己評価 ◎

数値目標 専門家評価「専門性ある人材の活用が教育充実に繋がっている」=70% ⇒ 86%

方策 人材活用プロジェクト <主管：経営会議、学習指導部、研究研修部>

- ・両部門：専門家・医師をアドバイザーとして人材活用した授業者支援や生活指導支援を行った。
→両部門：特別講師を招聘した保護者学習会「言語・文字の獲得に繋がる『考える力』を育てる」を開催した。
- ・S部門：学校介護職員と教員の協働体制を確立させ、連携して業務に従事できるようにした。
- ・B部門：臨床心理士等による「さわやか相談」等のアドバイスシステムを導入した。

最重点 1 授業力の向上 ☆個別学習等の「個に応じた学習指導」の力量形成 自己評価 ◎

数値目標 授業者支援会議：20回以上 →42回実施、 授業参観ガイド：年2回以上発行 →5回発行

方策 授業力向上プロジェクト <主管：研究研修部、共管：学習指導部、教育課程・学籍部>

- ・授業者支援会議による改善で得たノウハウを授業改善ハンドブックにまとめた。
- ・専門家を人材活用した授業者支援及び学習会等により保護者支援を行った。(再掲)
- ・指導実技型授業力向上研修を全教職員対象に年1回実施し、日々の指導充実に活かした。
- ・指導に関する説明力向上を目指し、授業参観ガイドの発行及び学園生向けの通知表を工夫した。

最重点 2 各部門の専門性発揮・向上による特色ある教育の推進 自己評価 ◎

数値目標 専門委員の意識調査「専門性を発揮した教育活動が展開されている」=70% ⇒ 86%

方策 専門性発揮プロジェクト <主管：教育相談部、学習指導部、研究研修部>

- ・両部門：高等部学力調査問題作成システム導入及び過去問題を中3生学習用に提供した。
- ・両部門：将来の進学等に備えて、英検・漢検等に挑戦する学園生への補習機会を設けた。
→両部門：将来生活を見通して、希望する学園生への課外活動の機会を提供した。
- ・両部門：タブレット型端末等 ICT 機器を活用した病院・在宅訪問教育の充実を図った。
- ・S部門：企業との共同開発研究による「聴く読書支援」等の読書整備と活用を進めた。
- ・両部門：都指定「オリ・パラアワード顕彰校」等としての実践を重ね、普及・啓発を進めた。
→両部門：都指定「夢・未来プロジェクト実施校」に基づく体験教室及び交流を実施した。

最重点 3 児童・生徒が安心して学校生活を送れる生活指導体制の構築 自己評価 × 分析：経過等の情報提供不足

数値目標 保護者の意識調査「防災面での改善が進んでいる」=80% ⇒ 保護者 50% ※専門家86%、教職員70%

方策 安心・安全プロジェクト <主管：生活指導部、スクールバス運行部、経営企画室>

- ・各部門の特性に応じた危機管理マニュアルを作成し、合同避難訓練や宿泊防災訓練を実施した。保護者50% ※教職員70%
→地域防災訓練等への協力を通して、地域との災害時相互協力関係を構築した。
- ・万一の事故を教訓とした再発防止策を徹底（保護者への事故再現と説明、再発防止訓練）した。教職員79%
- ・安全な施設設備の利用方法の開発（事故・怪我の防止） 保護者51% 教職員83%
- ・スクールバスの安全運行に努めるとともに、寄宿舎生を含めた通学生の通学指導を徹底した。教職員82%

最重点 4 安心できる保健体制と安全で美味しい給食を提供できる体制の構築 自己評価 ○

数値目標 専門家評価「安心・安全な新システムが構築されている」=70% ⇒ 86%

方策 保健・給食システム構築プロジェクト <主管：健康部門>

- ・2部門1拠点型に応じた、保健・緊急対応システムを開発した。
- ・適切なアレルギー対応を行う為に教職員の資質向上を図るとともに、校内体制を整備した。
- ・都の新要綱を踏まえた医療的ケア体制を構築するとともに、新規開校校の支援を行った。

- ・厨房環境に応じた安全で美味しい給食の提供に努めるとともに、楽しい給食タイムを推進した。
- ・摂食機能に応じた形態食の提供を行うとともに、個に応じた摂食指導の充実を目指し、研修を行った。

最重点 5 地域支援の充実 自己評価 ○

数値目標 保護者対象の学習会 参加者50名（プラス評価70%）→参加者16名 プラス評価100%

方策 相談支援プロジェクト <主管：教育相談部、広報部、地域支援部、進路指導部>

- ・地域のニーズを踏まえた学校公開や地域支援（幼児とその保護者対象の情報提供を含む）を行った。
 - 就学・転学・入学・教育相談、地域支援、進路指導情報の組織共有と学園方針に基づく支援を実施した。
 - 保護者向けに学校外活動等の情報発信をしたり、地域向けにHP・掲示板等を活用して情報提供した。
 - 進路指導の充実（卒業生の自立支援のための校内販売機会の積極提供と卒後情報の校内還流を含む）
- ・都推進室の指導に基づき、B部門に関する見学・教育・転学相談に関する校内システムを開発した。
- ・PTA 活動へと積極的に連携し、全国大会の運営や分科会発表に全面協力した。

最重点 6 安全で魅力ある学校環境・職場環境の創出 自己評価 ○

数値目標 保護者又は教員の意識調査 「環境改善が進んでいる」=70% →非数値化

方策 環境改善プロジェクト <主管：図書委、教育環境部、生活指導部、経営企画室>

- ・読書活動等の本や活字に親しむために図書や新聞の配架整備と活用を図った。
- ・校内美化のために、掲示物の更新や校内の整理・整頓だけでなく「全校一斉整理デー：KKP」を行った。
- ・働きやすい執務環境構築を目指して職員室・経営企画室等の環境改善を行った。
- ・学校環境・職場環境を改善するために、リフレッシュ資源（スイーツ等のセルフ購入システム）を導入した。
- ・そよ風分教室において電子決裁システムを全面導入し、個人情報保護・業務効率化を進めた。
- ・通学指導等を行う教職員に誘導用ベスト・蛍光誘導棒を配備するとともに、校内連絡用携帯電話を導入した。

全校研究 魅力ある学園教育の発見・開発・発信 自己評価 ◎

数値目標 全国公開研究会参加者の意識調査 「プラス評価」=70% →95%

方策 研究開発プロジェクト <主管：教育相談部、医療的ケア部、研究研修部>

- ・両部門：高校準拠問題作成システム構築及び過去問題開示による中3生への学習機会提供を総括し発表した。
- ・S部門：肢部門医療的ケアシステムと他種別の特別支援学校での医ケア導入への支援を総括し発信した。
- ・S部門：授業者支援会議で得た改善ノウハウを基にして授業改善ハンドブックを作成し、方法論共に実践発表した。
- ・両部門：ICT教育の実践（訪問教育での実践、病院内教育での実践、企業との共同研究を含む）を総括し発表した。
- ・両部門：オリンピック・パラリンピックアワード顕彰校としての展開を総括し発表した。

<光明学園教職員としての行動指針>

I 教職員個々の基本的行動指針 <経営会議・企画調整会議>

① 全教職員として学園生の規範モデルとなる行動実践

- ・体罰根絶を大前提とした人権尊重を推進した。（個人情報保護、クリーンデスクを含む）

② 全光明学園 作成するビジネス・コードを踏まえた学園教職員として誇りある行動実践

- ・マナー：社会人・教育公務員としての理解と実践を継続して徹底した。
- ・スピリット：学園の教育理念を理解し共有できるように、校長から経営方針説明を行った。

- ・ルール：併置校の実態に応じた業務システムを開発し共有と活用を図った。

II 教職員個々が経営参画するための具体的行動指針 <経営会議・企画調整会議>

数値目標 教職員自己評価<自己申告書「4 能力開発」に取組内容と達成度を申告>

方 策 各自で①～⑤をプランニングし、進行管理 <全員、共管：副校長（課長）>

- ① **教：若手等**指導・改善力向上 ⇒ 授業者支援会議に授業者として参画した。
教：経験者支援・助言力向上 ⇒ 授業者支援会議に支援者として参画した。
- ② **教**説明力向上（説明責任履行） ⇒ 授業参観ガイドを作成し、分かりやすい説明に努めた。
- ③ **教**教科等の指導力向上 ⇒ 免許等に関する校外の研修等に参加した。
- ④ **全**担当業務に関する専門性向上 ⇒ 講習会等の受講を奨励した。
- ⑤ **教**進路指導・生活指導力向上 ⇒ PTA や部活動の支援者として年1回以上の参加を奨励した。
- ⑥ **全**接遇力・対応力の向上 ⇒ 学園クオリティを高める接遇スキルアップを奨励した。

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 東京都特別支援教育推進計画（第1・2期）及び実施計画への参画と貢献

- 31年度に開校する開校予定校開設準備担当への開校支援を行う。
- 肢・病拠点校として、医療的ケアの新規開始校への支援や指定モデル事業等の役割を積極的担う。

(2) 中期計画を踏まえた専門性の向上に基づく教育指導の充実 ※中期計画は29年度経営計画参照

○進路指導の充実

S：在宅・在校企業実習も含めた就労・進学の可能性追求、卒業生のフォローアップと進路情報を還元する。

B：専門家を活用した生活指導のスキルアップと新全体計画に基づく組織的指導の充実を図る。

全：中高生の進学・就職志望に対応した早期からの情報提供と相談に基づく受験特別プログラムを提供する。

○自己肯定感の醸成と個性ある才能の発揮

全校：読書活動の普及・展開、アクティブラーニングの視点を加味した調べ学習の展開

全校：従来のスポーツ表彰に加えて、アート表彰・書道表彰、読書表彰等の定例アクションとして開発する。

○第2回全国公開研究会を到達点とした指導実践の蓄積と発信する。（プログラミング学習を含む）

(3) 29年度学校経営報告及び学校評価に基づく対策

- 専門人材を活用した指導充実 → 学習指導アドバイザーを活用した授業者への継続的支援を行う。
- 防災訓練等に関する情報発信の充実 → 防災宿泊訓練や避難訓練の意義・方法・経過報告を積極的に発信する。

(4) 人材育成の継続・充実

- 今後の併置校運営を担うリーダー人材を育成する。（校長職・教育管理職、4級職、主任教諭への選考挑戦）
- 授業力リーダーを育成する。（東京教師道場の受講者・修了者の成果還元と人材活用、指導教諭の人材活用）
- 将来の特別支援教育を担う若手人材を育成する。（教員志望者応援講座の推進、教師養成塾との連携）

※各項目に関する関係者（専門家、教職員、保護者）評価の詳細は、本校HPに掲載の「平成29年度学校評価集計結果とまとめ」、「同 総括」及び「同 児童・生徒評価」を参照。